

再 評 価 書

箇所名	一般国道167号鶺方磯部バイパス		事業名	道路事業	課 名	道路建設課 (志摩建設事務所)
事業概要	工 期 (下段：前回)	S61年度～H29年度	全体事業費	14,565百万円 (負担率：国5.5：県4.5)		
		S61年度～H27年度	(下段：前回)	13,346百万円 (負担率：国5.5：県4.5)		
事 業 目 的 及 び 内 容						
<p>■当該路線の状況</p> <p>一般国道167号は、志摩市阿児町を起点として、鳥羽市を經由し伊勢市通町の一般国道23号に至る区間、及び平成25年度に開通しました第二伊勢道路を含む、延長約4.9kmの道路です。</p> <p>当路線は、志摩地域と伊勢・鳥羽地域を連絡するとともに、志摩市内においては、市内を南北に縦断する道路であり、沿線地域の生活・産業・観光を支える道路です。また、大規模な災害時には、避難・救助、物資の供給、諸施設の復旧等の広範な応急対策活動に利用される『緊急輸送道路』に指定されています。</p> <p>しかし、現道は、阿児町の鶺方駅周辺の市街地を通過すること、周辺に志摩スペイン村をはじめとする観光施設が多数あることから、市街地において、朝夕や休日・観光シーズンには慢性的に渋滞しています。</p>						
<p>■事業目的</p> <p>志摩市市街地の交通渋滞を解消し、安全で円滑な交通の確保を図ります。</p>						
<p>■事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業計画期間 32年間 (昭和61年度～平成29年度) ・全体事業費 14,565百万円 (工事費：10,355百万円、用地補償費：4,210百万円) ・計画延長 L=7,650m (起点) 志摩市阿児町鶺方～(終点) 志摩市磯部町迫間 ・幅員 W=6.5(12.25)m ・主要構造物 磯部トンネル 橋梁 5橋 						
事 業 主 体 の 再 評 価 結 果						
<p>1 再評価を行った理由</p> <p>平成22年度に再評価を実施後、一定期間(5年)が経過し、事業継続中であるため、三重県公共事業再評価実施要綱第2条(3)に基づき再評価を行いました。</p>						
<p>2 事業の進捗状況と今後の見込み</p> <p>2-1事業の進捗状況</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 平成26年度末の事業進捗率は、92% (用地100%、工事88%) となっています。 ② これまでに起点側1,280m、終点側2,930mを供用し、残区間は磯部町穴川から阿児町鶺方までの3,440mです。 ③ 現在、この未供用区間3,440mの工事を進めています。 <p>2-2今後の見込み</p> <p>現在は、未供用区間の3,440mについて、工事を進めているところですが、用地買収も完了し、未供用区間全区間着手済であるため、平成29年度に事業完了見込みです。</p>						
<p>3 事業を巡る社会経済状況等の変化</p> <p>平成25年9月には、高速道路に連絡する第二伊勢道路が開通しました。このことにより、高速道路を利用して、志摩地域に訪れる観光客の利便性が向上しています。また、平成28年の伊勢志摩サミット開催による全国的な知名度向上により、将来の観光客の増加が見込まれています。</p> <p>東日本大震災以降、志摩市においても大規模地震による津波被害が想定され、防災対策への意識が高まっています。</p>						

4 事業採択時の費用対効果分析の要因の変化、地元の意向の変化等

4-1 費用対効果分析

○事業区間全体の費用対効果分析の結果は、

走行時間短縮便益	381.6億円
走行経費減少便益	52.1億円
交通事故減少便益	12.6億円
総便益	446.2億円
総費用	229.7億円

費用便益比は、「1.9」となります。

4-2 その他の効果

○救急救命医療への効果

大王、志摩町方面から、二次救急医療施設である志摩病院への救急搬送等において、鵜方駅周辺の渋滞が緩和されることにより、迅速な救急救命医療が可能となります。

○防災機能の強化

第一次緊急輸送道路に指定されている国道167号において、鵜方地内の低地部では津波浸水被害も想定されることから、地域の高台を通過するバイパス計画は、被害発生後の避難や物資輸送などの防災機能も強化されます。

○観光産業への効果

高速道路に連絡する第二伊勢道路が開通し、高速道路を利用して、志摩地域に訪れる観光客の利便性が向上しており、鵜方磯部バイパスの供用により、さらなる期待が寄せられています。

4-3 地元の意向

伊勢市・鳥羽市・志摩市・南伊勢町で構成される「伊勢・志摩連絡道路建設促進同盟会」から、朝夕の通勤時間帯や観光シーズンには交通渋滞が日常化し、観光客だけでなく救急医療など地域住民の日常生活にも大きな支障が生じているとして、鵜方磯部バイパスの早期完成が強く要望されています。

5 コスト削減の可能性や代替案立案の可能性

5-1 コスト削減

道路照明灯設置に際し、LED照明による維持管理費の削減を行い、コスト削減を図っています。

橋梁整備において、少数主桁の採用による建設コストの削減を図っています。

法面にコンクリート張工を施工し、除草に要する維持管理コストの削減を図っています。

5-2 代替案

未供用区間の用地買収も完了していること及び現在も市街地部で渋滞していることから、代替案はありません。

再評価の経緯

当該事業は、昭和61年度に事業着手し、これまでに平成12年度、平成17年度、平成22年度に再評価を実施しています。

平成22年度の再評価においては、事業継続の妥当性が認められたことから事業継続を了承されています。

ただし、次の点について意見をいただいています。

①道路事業の費用効果分析においては、マニュアルに規定される便益だけでなく、観光・防災・救急救命等その他の効果について、背景も含めて説明されたい。

事業主体の対応方針

三重県公共事業再評価実施要綱第3条の視点を踏まえて再評価を行った結果、同要綱第5条第1項に該当すると判断されるため当事業を継続したいと考えています。